

開催概要

「第7回全国小水力発電大会in京都」を2022年11月10日から12日の三日間の日程で開催します。これまで全国小水力発電大会は、小水力発電のあらゆる関係者が一堂に会し産官学民の垣根を越えて情報や課題を共有し、小水力発電の更なる普及を図ることを目的として開かれてきています。今回、7回目の大会が京都で実施されることとなりました。

開催地である京都を含む近畿地方は、古くから都市の発達した地域ですが、その繁栄を支えたのは琵琶湖淀川水系を始めとする豊かな水資源と自然の恵みでした。特に今大会の会場がある京都市は、古都ではありますが、明治維新以後においては近代化の中で琵琶湖の水の恵みを授かり発展してきました。琵琶湖疏水の開削や蹴上発電所の水力発電が、産業や都市の成長に大きく寄与してきました。琵琶湖淀川水系は、上水道や電力の供給だけではなく、様々な生態系サービスを提供して、この地域の人々の暮らしを支え、すべての命を支えています。

加えて、気候危機が地球全体の差し迫った課題となっている今日において、京都の地で大会を開催することの意義は極めて大きいと考えています。京都では1997年12月のCOP3において「京都議定書」が締結され、地球温暖化防止の世界的な取り組みが始まることになりました。そして2015年には「パリ協定」が結ばれて、長期的な温暖化対策の目標が設定されました。世界各国は2050年の脱炭素社会実現に向けて宣言を行い、化石燃料から再生可能エネルギーへの転換を進めています。その中において、水力発電は古くから活躍してきましたが、分散型で地産地消が可能な小水力発電にはあらためて注目が集まっています。

今大会では、京都の水利用と水力発電の歴史に学ぶとともに、今日的課題である再生可能エネルギーの活用に向けて琵琶湖淀川流域の小水力を含めた内外の事情を明らかにし、脱炭素社会の実現のための再生可能エネルギーの在り方について幅広く議論ができればと思っております。もちろん小水力発電についての現場からの報告もありますし、関連企業によるプレゼンテーションも予定されています。また、例年通り、関連企業の情報交換、商談の場として企業展を開催いたします。

今大会においてもコロナ禍が終息したとは言えない状況ではありますが、最大限、感染防止に注意しながら、昨年見送られた交流会とエクスカージョンを実施することといたしております。エクスカージョンでは京都のみならず、滋賀、奈良、三重、福井の小水力発電の現地見学も予定されています。多くの皆さまに本大会に参加していただけることを期待しています。

大会テーマ「あと8年。京都で見つける、エネルギーの未来と地域再生の原点」

開催日	2022年11月10日(木)～11日(金) 12日(土) エクスカージョン
開催地	京都府京都市、京都経済センター2階：産業会館、7階：京都商工会議所
主催	全国小水力発電大会・京都大会実行委員会、全国小水力利用推進協議会 関西広域小水力利用推進協議会
後援	総務省、文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省、京都府、京都市、大阪府、 兵庫県、滋賀県、奈良県、一般財団法人新エネルギー財団、一般社団法人ターボ機械協会、 NPO 法人日本水フォーラム、オーストリア大使館商務部
参加費	1,000円
事務局	関西広域小水力利用推進協議会 〒604-8211 京都市中京区玉蔵町121 美濃利ビル502号気付 TEL：080-7051-5830 E-mail：kyototaikai-2022@kansai-water.net